

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	おりーぶおりーぶ岩倉		
○保護者評価実施期間	2024年11月29日		2024年12月20日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	18	(回答者数) 17
○従業者評価実施期間	2024年11月29日		2024年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	2024年12月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	特別支援学校に通う子どもたちと、地域の学校に通う子どもたち(通常学級・支援学級)の2タイプで構成されている。	支援を必要とする子どもたちがお互いを理解して関わっている。お互いを知ることで助け合う心を育んでいる。	環境調整やほめ方・伝え方を中心に、子どもたちの自己肯定感を高めるように支援を行っている。
2	買い物やお祭り等、外出して地域交流する機会が多い。	買い物支援では、自分で商品を選ぶこと、お金のやり取り、人と関わること等を実践している。また社会ルールを学ぶことで、社会性を身につけることができる。	公共交通手段を利用した外出や、お金の計算にまつわる支援等、大人になって必要なスキルを子どものうちから学び、多くの経験を積んで成功体験を増やしていく。
3	ドッグセラピーがあり、子どもたちや親に人気が高い。また室内が広いので、様々な運動療育ができる。	動物介在活動を中心に、犬をつかった声掛け、動作、行動を結び付けていく。犬に指示命令が出すことは、すなわち自分自身の思いが具体的な行動として結びつかないと難いため、自分自身の自己覚知につながっている。犬を介して自己肯定感をあげていく。	犬はフワフワとした抽象的な指示では従わない。しっかりと声を出して具体的な指示をしないと動かない。自分が自信を持たないと周囲の人へ思いが伝わりにくいことを学びながら、社会的スキルを高める機会とする。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域の子どもの交流やきょうだい間の交流の機会が少ない。	地域の子どもの交流については保護者より積極的な希望が見られない。学校や放課後児童クラブ等でストレスを抱えた経験から敢えて希望しない親がいるのも事実。一方で、きょうだい間の交流は希望が見られた。親の思いを大切にしながら、少しずつ支援を考えていく。	地域の子どもの交流については、交流先にも承諾が必要であるため、今後調整を図っていく。 きょうだいの参加については、現在のプログラムも含め早期に開始できる。
2			
3			